

令和4年度青森市指定管理者選定評価委員会 会議概要
(「指定管理者候補者選定」に係る審査)

- 1 開催日時 令和4年10月3日(月) 11:00～11:50
- 2 開催場所 青森市議会棟 第1委員会室
- 3 対象施設 モヤヒルズ・青森市八甲田憩いの牧場・青森市合子沢記念公園
- 4 出席者
 - (1) 選定評価委員会
委員長 舘山 公(企画部次長)
副委員長 工藤 拓実(総務部次長)
委員 竹内 紀人(青森中央学院大学教授)
委員 桃野 敬(東北税理士会青森支部税理士)
委員 泉 宏明(環境部次長)
委員 土岐 政温(都市整備部次長)
委員 大久保 綾子(教育委員会事務局教育次長)
 - (2) 施設所管課(観光課)
課長 船橋 正明
主幹 坂本 亮
主査 松本 洋平
(農業振興センター)
所長 鶴賀谷 敏彦
主幹 吉崎 雅幸
技師 木立 京介
(農地林務課)
課長 嶋 守 亮
主幹 田中 広信
主査 佐藤 宏之
 - (3) 制度所管課(財政課)
副参事 阿部 有一郎
主査 阿部 ゆき
主査 櫻田 博光
- 5 案件 指定管理者候補者の選定について

6 審査結果

(1) 指定管理者候補者

- ・名称 一般財団法人 青森市文化観光振興財団
- ・住所 青森市雲谷字梨野木 63
- ・代表者 理事長 能代谷 潤治

(3) 指定期間

(モヤヒルズ・青森市合子沢記念公園)

令和5年4月1日から令和10年3月31日まで(5年間)

(青森市八甲田憩いの牧場)

令和5年4月1日から令和8年3月31日まで(3年間)

(3) 選定理由

- ・応募資格を満たしていること。
- ・「応募団体について」及び「効率性について」を除いた得点(90.57点)が最低基準点(74点)以上を獲得していること。

7 主な質疑内容

【職員等の研修計画】

委員：索道技術管理者が2名いるということであるが、今後に備えて索道業務の従事経験年数が若い職員の方も研修を受けたりして、若手の人材育成することは考えているのか。

応募団体：現在も継続的に、索道技術管理者の2名のほかに、索道業務の従事経験年数が若い職員も、東北索道協会の索道技術管理者研修を受講している。

【収支予算】

委員：利用料金収入について、募集要項で示した基準額の7,000万に対して7,400万と高く見込んでいるが、具体的にどの収入を多く見込まれたかお知らせいただきたい。

応募団体：索道収入とキャンプ収入を多く見込んでいる。

委員：索道収入とキャンプ収入を多く見込んだ根拠をお示しいただきたい。

応募団体：キャンプ収入については、近年キャンプブームもあり、キャンプ場の利用者数かなり増加していること、キャンプ利用者の増加に合わせてリフトの利用者数も、コロナの影響が少し和らいでいることもあり、以前に見込んでいた数値よりも多く、回復を期待して計上しているものである。

委員：自主事業収入も微妙に伸びているが、この理由は企業努力として上昇している数値か。

応募団体：その通りである。

【来館者を増加させるための自主事業】

委員：自主事業収益について、特にどの部門において伸ばしていきたいという考えはあるのか。

応募団体：モヤヒルズの収益は、ウィンターシーズンの収益が大半を占めており、12月～3月で7割以上を稼いでいる状況である。

よって、現在、コロナの影響もあってキャンプが非常に追い風になっているため、今後はキャンプに関わるイベントを増やしたり、子供たちにキャンプ場に来ていただいて、将来キャンパーになってもらうなどの取り組みでキャンプ場の収益を増やしていきたいと考えている。

委員：現在、どのくらいキャンプ場の利用者が増えているのか。

応募団体：例年の1割増までに届かないものの、令和4年度の9月は天気が良ければ、キャンプサイトの大半が埋まっている状態であり、コロナ以前のキャンプ場の状態よりも少し増えている状況である。

委員：人工降雪機の予算はいくらくらいの想定をしているのか。

応募団体：実際、首都圏に近い長野や山梨の方面では、雪不足の為に人工降雪機を導入しているスキー場があり、首都圏からのお客さんの利用がある程度見込める場所に位置しているため、リフト料金を高めに設定しているが、モヤヒルズの場合は、利用料金を高く設定すると、利用者数が減少してしまう恐れがあることから、大型な機器の設置は難しいものの、1台から2台、大体200万から300万を想定している。

また、所謂人工造雪機を設置する場合、高額な予算が必要となるが、降雪機であれば多少の寒さがあれば雪を賄うことができるので試験的に1台から2台導入したいと考えている。

【来館者を増加させるためのPR】

委員：誘客を図る上で、様々な媒体を利用したPRを行っているようであるが、広報や宣伝の担当は営業が所管になるのか。

応募団体：営業企画が主体となって広報・宣伝業務を担当している。

委員：SNS広報などが得意な営業担当が、広報・宣伝の取り組みを専担者として行っ

ているのか。

応募団体：その通りである。

得意というよりは、営業企画担当が日々様々なPR媒体を勉強しながら、ホームページの他にも、インスタグラムやフェイスブックに投稿しているほか、当財団の他の事業所においてもそれぞれにリンクを張って、各施設の情報を閲覧でき、広く周知を図れるよう取り組んでいる。

今後も様々な媒体を継続的に勉強しながら、新しい情報発信に努めてまいりたい。

委員：どのくらいの頻度でそのSNSの投稿を行っているのか。

応募団体：インスタグラムは週に3~4回は更新している。

フェイスブックについては、ウィンターシーズンはほぼ毎日更新しており、日々の積雪情報とかコンディションを掲載し、情報を発信している。

インスタグラムは、昨年の冬後半から始めたため、今年はフェイスブックと連動として毎日更新していきたいと考えている。

【管理運営方針】

委員：家族で毎年スキー場をよく利用しているが、昨年度は降雪量が多かったこともあり、ワラビゲレンデの圧雪が不規則な状況であったと感じられたため、今年も引き続きよろしく願いたい。

応募団体：圧雪状況を日々注視しながら、適切に行ってまいりたい。

【利用料金】

委員：リフトの利用料金について、小学1~2年生が無料となっているが、子供が1人で行けない年代である4年生まで無料にしていただけるとありがたいか。

施設所管課：リフトは利用料金であり、利用者が増加しても収支のバランスを計画的に見込む必要があるため、その結果、現在の1・2年生を無料とする判断になっている。貴重な意見として頂戴したい。

【福祉に関する取組】

委員：障がい者の雇用はおこなっているのか。

施設所管課：指定管理申請団体としては、3名雇用しているが、当該3施設においては、雇用していない状況。